

大地震での避難判断

避難判断フローチャート

大地震の発生直後はどこに避難するべきか、また、状況が収まったあとは指定避難所へ向かうか、在宅被災者として自宅に留まるべきかを判断しなければなりません。
あらかじめ自分の住む地域の状況を把握することが大切です。



藤沢市防災アプリ [HAZARDON(ハザードン)] は、スマホから文字と音声で災害情報をキャッチすることができます。



大きな地震が発生!!

まずは自分の身を守りましょう。
揺れが収まったら...

今いる場所が
海の近く
津波災害警戒区域内

今いる場所が
崖の近く
土砂災害警戒区域内や
老朽化している建物や
塀の近く等

今いる場所が
上記以外の場所

- ◆まずは周囲の状況を確認
- ◆足元に注意
- ◆火が出ていたら
落ち着いて消火

すぐに避難!!

- 津波災害警戒区域外へ避難。それが困難な場合は津波避難ビルなどの高い場所に避難しましょう!
津波が収まるまで、その場を動かさないようにしましょう。
- 崖の近くでは、屋内でも土砂が流れ込む可能性があります。
- 老朽化している建物や塀も崩れる可能性があります。できるだけ離れましょう!

一時避難場所へ集合!

- 自主防災組織などが指定した場所へ避難しましょう。
※直接、指定避難所へ向かうよう定めている自治会もあります。
- 持ち出せる場合は非常用持出袋を忘れずに。

一時避難場所とは:

自主防災組織などが指定した場所だよ。避難の流れは、住んでる地域や自治会によって異なる場合があるんだ。避難の流れを把握するためにも、各地区や自治会の防災訓練・避難訓練に参加しておこう。



2025年7月には、片瀬海岸三丁目「津波避難タワー」が完成予定です。

地域で火災は発生していますか?

はい
いいえ

初期消火!

力を合わせて初期消火をしましょう。火災が延焼拡大した場合は、速やかに指定緊急避難場所へ避難しましょう。

近くにいる人や、隣近所を確認し、助けが必要な人がいる場合は力を合わせて助け合いましょう。

自宅での生活ができる状態ですか?

状況が収まったら自宅の状態を確認します。自宅の損壊状況によって、指定避難所へ向かうか、自宅に留まって生活するか判断しましょう。

自宅での生活

自宅で生活する場合は、指定避難所で在宅被災者の登録をしましょう。登録することで、避難所で物資や情報を受け取ることができます。また、(25ページ)等を参考に防災行政無線やラジオ等で情報収集しましょう。さらに、事前の備えも重要です。「第2章後悔しないためにも備えよう」(27ページ)以降をチェックしましょう。



指定避難所へ

自宅の損壊状況や、余震等により、指定避難所での生活を選択し身を守る必要があります。指定避難所へ向かう場合は、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めましょう。



- 指定避難所
被災し、自宅での生活が難しい場合に身を寄せ、生活する場所です。「第3章もしもが起こったそのときに」(35ページ)以降を参照し、みんなで協力し合って避難生活を乗り切りましょう。

特に支援を必要とする方

- 福祉避難所(一次)
指定避難所での生活が困難な要配慮者(高齢者や障がい者等)が高齢者・障がい者施設(福祉避難所(二次))へ移るまでの一時的な避難生活の場です。各市民センター・公民館に開設されます。



災害時の避難情報・避難所の開設情報、公共交通機関やライフラインの状況を表示します。
また、警報や注意報、その他の気象情報を確認することができます。

- 自宅の状況や被災の程度で、避難所へ行くか在宅避難にするかを考えましょう。
「在宅避難」とは、災害が発生した際、自宅で身の安全が確保される場合、避難所に向かわず自宅で避難生活を送る方法です。
住み慣れた環境で生活ができるため、災害によるストレス軽減や、感染症のリスクなどを下げることができますが、自宅が危険な場合は、迷わず避難所に避難しましょう。